

県知事賞に太田佳奈さん

次代を担う小中学生に水についての理解を深めてもらうため、県が毎年開催している「水の週間記念作文コンクール」。

今年度は、県内小中学生698点の応募の中から、

中央小学校5年の太田佳奈さんが見事、最優秀賞の県知事賞を獲得した。

また、同じく中央小5年の板谷沙輝さんが県教育長賞に、

本川根小5年の村松昌哉くんが私学協会長賞に輝いている。

「水を守ろう」

中央小学校5年 太田佳奈

総合的な学習の時間や社会科で、川の水質や飲み水のことを調べたり学習したりしました。

水質は学校のすぐ横を流れる長尾川で調べました。キャンプ場も近くにあり、私たちが小さな時から、よく遊んだ川です。見た目では水はすきとおっているのですが、水質がどうのこうのと考えたことはありませんでした。でも本当にきれいな川なのかと聞かれました。「わかりません。」としか言えません。そこで、長尾川の水質について調べました。調べ方は水生生物をとって、指標生物から水質を調べる方法です。実際にやってみると、ヘビトンボやヒラタカゲロウなど、きれい

私たちの生活をふり返ってみると、トイレにしてもお風呂にしても、台所にしてもよごれたものを水で全部流してほっとしてしま

す。流した水のことには考えたことはありませんでした。しかし川の水質を調べてみると生活は水の流れ込んでいる所は、そうでない所に比べると、ずいぶんよごれていることを知り、川の水をよごしているのは自分たちだということに改めて感じました。逆に考えれば、私たちが気をつけることで、川の水をきれいにするこ



▲ヘビトンボの幼虫



▲ヒラタカゲロウの幼虫

さて、私たちが生活の中で使っている水はどこから流れてくるのでしょうか。水は山から流れてきています。ですから大雨がふると、きたなくなりますが、でも、三日くらいするともとどりのきれいな水になります。そのわけは、山でよごれやどろをすいって、きれいな水にしてくれるからです。山に木がたくさん生え、手入れをされていると、川の水にも栄養がたくさん入り、おいしい水ができるそうです。だから山がないと、きれいな水もおいしい水もできません。山は、水のお母さんと言ってもよいかもしれません。

水を大切にするには、私たちが水をむだ使いしたり、よごしたりしないという使い方ももちろんですが、山を大切にすることも、水を大切にすることにつながるのです。わたしたちが山を大切にす

◀作文を手に、受賞をよろこぶ太田さん。後ろは、文中に登場する長尾川。



になくってはならない水に、と自分からかかわっていこうと思います。

県教育長賞 板谷沙輝さん(中央小5年)

「大切な水を守る」



私はもっと水を大切にしたいと思います。水にかぎりがあり、使いすぎると水が無くなってしまったからです。ある夜、水道管がはれつしてしまい断水になってしまった時、いつもは当たり前に使っている水が出ないと本当に困ることを知りました。そして今まで水をいいかげんに使っていたことに気づき、反省しました。歯みがきの時にコップを使うなど、水の出しっぱなしを減らす努力を続けていきたいと思っています。

もう一つ、私が水を大切にしたいと思う理由は、私が好きな水辺の生き物の命を守りたいからです。私たちの地いきの水道水は、水源が山にあります。しかし、日照りが続いたときなどは、茶畑にまく水を川からとることもありました。川から水をとると川の水が無くなります。水が無くなるということは私たちの生活が大へんになるばかりでなく、川に住む生物や身近な植物も、命があやうくなるということです。

水を大切にするためには、私ひとりがかんばっても、目に見える効果はありません。でも多くの方が、水を大切にしようと考えたら、きっと効果が表れることと思います。まずは家族から、そして学校へ、地いきへと、「水を大切にしよう」の考えが広まっていったら、うれしいです。

私学協会長賞 村松昌哉くん(本川根小5年)

「玄関から見える景色がいつまでも」

ぼくの家の前には、長島ダムのダム湖が一面に広がっています。気持ちのいい大自然の中で、毎日生活しています。

授業の中で、先生が「もしきれいな水が無くなってしまったら、どうする。」と言いました。そこで、水について振り返ってみることにしました。始めに、一日の生活の中でどんなことに水を使っているか考えてみました。ぼくの家族は5人です。お皿を洗う枚数も多いし、5人とも歯磨きなどを毎日するので、想像すると、ものすごく多い水を使っていることに驚きました。

しかし、暮らしていく中で、どれも元気に過ごしたり、健康的に生活したりするために大切なことなので水を使うことはしかたのないことかもしれません。だから、本当に必要な量だけを使って、節水に心がけようと思いました。

これからの生活の中で、水を使わずに生活することはできないけれど、水を大切にすることをもって節水に心がけながら使うことはできます。そうすることで、今後、何十年、何百年先もきれいな水を使える未来であってほしいと思います。きっとそれは、ぼくの家の玄関から見えるきれいな長島ダム湖や景観を守ることにつながると思います。

※板谷さん・村松くんの作品については、内容要旨でのご紹介とさせていただきます。

大橋慶士教育長に聞く「町内小学生の受賞者が多い理由」

町内の小学校では、積極的にさまざまな作文コンクールへ参加しているほか、ブックステップ事業(町からの本の寄贈)など本にふれる機会も多く、日頃から「文章を書く力」が身につく環境にあるといえます。また、今回受賞した皆さんは、生活や授業の中での体験から生まれた気づきや、自然や郷土を愛する気持ちを、作品内でいねいに表現しています。水辺の自然に親しむ本町の子もたちならではの感性と、それをまっすぐに伝える文章技術が、大いに評価されたのではないのでしょうか。



な水に住んでいる水生生物がとれ、長尾川の水質はきれいだということがわかりました。でも、生活はい水が流れこんでいる所には、きたない水の指標生物のヒルがいました。ずっとこのまま生活はい水が流れこめば、長尾川の水もよごれてしまいます。

とができるということなんです。ですから、野菜のためなど油を使ったら、用具や食器をキッチンペーパーなどでふいてから洗うようにし、油を流さないことや洗いをしすぎないようにすることなど、心がけていきたいと思います。

ることは、山に行くことから始めると思います。もっとも身近な山に行ってみようと思います。そして自分たちになくはない水に、もっと自分からかわっていきようと思います。

——自分たち
もっ